

学びをひろげる (第23回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2017年11月26日(日)(午後1時45分~5時)
場所 クレオ大阪東 2階 研修室
大阪市城東区鳴野(しぎの)西 2-1-21 ☎06-6965-1200
参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。



京橋駅 (JR線) 南口から南へ約600メートル
大阪ビジネスパーク駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)
4番出口から東へ約700メートル
京橋駅 (京阪線) 中央口から南へ約850メートル

一人で拡がらない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。

前回 第22回の内容

21回研究会に引き続き、特別の教科「道徳」について

今回は、山本、松井、松森、堀の4人のスタッフが、「私たちの道徳」(文科省発行)から教材を選び、「私なら、この教材を使って、こんな授業をする」という提案をすることから始めました。

4人が選んだのは、▼山本「相田みつを『めぐりあい』の詩」(小学校高) ▼松井「「集団における役割と責任」(小学校高) ▼松森「かけがえのない生命」(中学校) ▼堀「社会に生きる一員として」(中学校)

※詳しくは、<http://gakimon.main.jp/manabiwohirogerupe-ji.html>の“学びをひろげる わたしと○人の会”のページから「まとめ」をご覧ください。

4人の提案を受けて自由な話し合いになりました。いつものように、予定時間のぎりぎりまで意見交流が続きました。いくつかの意見を載せてみます。雰囲気だけでも伝わればと願います。

・今までは教科の中で、道徳(領域)を教えることになっていた。教科の中で道徳=生き方=学び方を学ぶのが学習。・45年前に受けた授業を思い出す。被差別部落の子どもが水汲みをする大変さ。事実を通した授業は忘れない。今実際に起こっている事実を題材にできないのか。・教師の労働環境の厳しさが「赤本」を頼りにさせる。・教科化は始まるので、「知らない」とはいえない。どう対抗していくのか。・人権教育の歴史を通して教材の吟味、教材づくり、授業づくりに取り組む。・本気でやろうと思ったら、むしろ今まで以上にやれる。・1年間「東日本大震災」を題材にした道徳の授業をしたという話をめぐって、これからはそんな授業ができるのか。時間の弾力性、教科書を使わない、教員の主体性。・どのように行動するか、もっと広く考えると、どう生きていくか考える、自分の中に倫理感を育てる子どもを育てる(そんなことを考えられる教材を子ども達に与えたい)。・様々な答えを導き出した子どもの裏にある一人一人の価値観やそれを導き出した背景に注目するべきだろう。・「決められた答え・価値観」に誘導する授業では、学習のエンジンは発動しない。到達目標と、進展が用意されたシラバスのもとでは学習のエンジンは発動しない。・「こうあるべきだ、とせまってくる」のに対応するのは、なかなか困難なのだ。



研究会のようす

今回 第23回は

田鹿大輔さんから、授業実践を提案(寝屋川市の小学校教員)

「説教では変わらんよ。子どもは授業で変わるんだ」大阪に来て、先輩の教師から言われた言葉です。何を言っているのか、さっぱりわかりませんでした。教師になって10年間、私はその言葉を目標に、やってきました。そして、実感できるようになりました。

①子どもが、生活を語る授業。②すべての子どもの学びを保障する授業。私は、この2つの授業をめざし、仲間とともに実践しています。動画など、具体的な子どもの姿とともに、報告します。

教育には様々な課題がありますが、教師による授業が、それを引き起こしている大きな要因の1つだと思います。逆に言うと、授業には大きな可能性があると思うのです。みなさんと、授業についてお話しできるのを、楽しみにしています。

★次回第24回研究会は、1月27日(土)午後1時30分~5時 阿倍野市民学習センター第2研修室★
前文部科学事務次官・前川喜平さんを囲んで学習会 乞うご期待!